

1 研究主題

自ら学ぶ力の育成

～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの国語科の授業づくり～

〈主題設定の理由〉

(1) これまでの研究

本校では、昨年度、研究主題を「自ら学ぶ力の育成」、副題を『主体的・対話的で深い学び』の視点からの国語科の授業づくり』として、新学習指導要領に基づいた国語科の授業づくりについて研究を進めてきた。具体的には、「単元で身に付けたい資質・能力を明確にした単元構想」、「最適な言語活動の設定」の2つを通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についての研究を進めてきた。

研究内容は、

「身に付けたい資質・能力を明確にした単元構想の工夫」

「最適な言語活動の設定」

「日常的な活動や環境づくり」

の3つである。「身に付けたい資質・能力を明確にした単元構想の工夫」は、単元で付けたい力を明確にし、単元構想図を作成するようにした。これにより、単元のまとまりを見通した学びや、「見通し」「振り返り」の場面を設定し、児童が主体的に学ぶ授業を想像していくようにした。「最適な言語活動の設定」は、「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを深めることができる言語活動を設定するようにした。その際、対話の前に自分の意見を持たせたり、必要感や「身につけさせたい力」に結び付く明確な目的のある交流をさせたり、明確な目的のある「対話的な学び」の場面を設定し、考えを深めたり広げたりするための手立てを工夫したりしていくようにした。「日常的な活動や環境づくり」は、並行読書や発達段階に応じた読書の質と量を確保していくなどの読書活動の充実や、日々の日記や「読もっか」への投稿、視写などの書く活動を継続して行うようにした。また、授業や集会などにおいては、これまでも取り組んできた「国府小版伝え合うスキル」を意識した発表などに取り組んできた。

(2) 研究成果や課題（教員の授業に関すること）

研究を進めていく中で、次のような成果と課題が見えてきた。

〈成果〉

① 「単元構想図」

- ・安心して授業を展開していく指標となったり、単元で付けたい力を毎時間確認することができたりと有効に活用することができた。
- ・キーワードなどを（ ）抜きにしたり、児童のノートを用いて完成させていったりしたことで、興味関心を高めることができ、主体的に取り組むことにつながった。

② 「ペア対話」

- ・ホワイトボードや付箋を活用することで、視覚的に言葉に着目して考えを深める（比較・検討）することができた。
- ・個人内対話からペアやグループでの対話、そして全体での話し合いなど、意見交流の場を徐々に広げていくことができた。

③ 「言語活動の設定」

- ・学習の成果を発表する機会を作ることで、児童の学習意欲を高めることができた。
- ・新聞やポップ、リーフレットなどの成果物を導入で提示することで、より具体的に

イメージを持って意欲的に学習することができた。

- ④ 「書く活動」
 - ・行事などの作文を書く機会を多く設けたことで、書き方や表現の仕方、書く量など、作文に求められる力がかなり伸びてきた。
 - ・「読もっか」に投稿するという目標（ゴール）があることでより意欲的に取り組むことにつながっていた。
- ⑤ 「伝え合うスキル」
 - ・各学年のスキルを視覚化して掲示したことで意識して取り組むことができた。
- ⑥ 「校内研修（研究授業）」
 - ・学習指導要領解説や新しい評価の観点に基づいて学習指導案を作ったり授業をしたりすることで、着実に力が付いてきた。
 - ・全員で教材研を行い、授業のポイントを押さえて研究授業に臨んだことで、参観者が同じ視点で授業を参観することができた。
 - ・6年生の研究授業では、中学校の先生や他の学校の先生にも来てもらったことで、幅広い観点からの事後研が行えた。
 - ・研究授業で学んだことを全教員で共有し、日々の実践に生かしていくことができた。（まよめの書き方、一読文の活用、単元構想図の工夫、教科書に返り叙述を基に根拠をもって説明する、など）

<課題>

- ① 「単元構想図」
 - ・低学年の場合は、変更や付け足しが難しいところがあった。
- ② 「ペア対話」
 - ・いつも同じ人から話し始める傾向が見られたので、話す順番にも配慮する必要がある。
- ③ 「言語活動の設定」
 - ・成果物を作る活動がメインとなってしまう、その単元で付けたい力が十分身に付いたのか不安になった単元もあった。
- ④ 「書く活動」
 - ・低学年では、書くことへの抵抗感が強い児童への配慮をし、書くことに慣れることから積み重ねていく必要がある。
 - ・全員の日記、作文を「読もっか」に投稿することができなかった。
- ⑤ 「伝え合うスキル」
 - ・話型の掲示は、ある程度の技能の向上に役立っているが、教師からの提示だけでなく、児童の発言からも取り上げ、価値づけていかなくてはいけない。
- ⑥ 「校内研修（研究授業）」
 - ・半分の教員で学習指導案の検討をして、ある程度の方向性が決まっているため、全体での教材研で意見が出しにくいことがあった。

(3) 研究成果や課題（児童に関すること）

昨年度の県版学力調査や標準学力調査の結果、ほとんどの学年で全国平均を上回っているが、課題が残った学年もある。

具体的には、算数においては、

- ・問題場面の理解が不十分で正しく解答できていない

- ・内容に合った算数用語を用いて助詞などを正しく使って表現できていないことに課題が見られた。国語においては、

- ・条件を満たして書く力

- ・場面の様子を読み取ったり，段落の内容を理解して文章を読み取ったりすることに課題が見られた。

また，昨年度末に全校児童を対象に実施した学校評価アンケート(表1)の結果，トイレのスリッパや靴を整頓することやそうじを一生懸命頑張ることなど，生活面においては改善傾向が見られた。しかし，「授業中に積極的に発表する」「大きな声で返事ができる」「読書が好き」など，学習面においては課題が見られた。

本校は小規模であるがゆえに，慣れ合いの関係に陥りがちである。場が変わろうと，自ら考え，正しく判断し，行動できる力の育成は常に本校の課題と言える。さらに，心の面においても，児童の心を耕し，児童がより関わり合い，互いに認め合いながら活動できるようにしていくことが大切である。今後も，児童自身が問題に気づき，解決に向けて行動ができるよう，具体的な取組を見直していかなければならない。

(表1) 令和2年度 全校児童用学校評価アンケートより

		そう思う・ だいたいそ う思う	あまりそう 思わない・ そう思わな い
1	あなたは，学校で楽しく過ごせていますか。	93.9%	6.1%
2	あなたは，授業がよくわかりますか。	91.5%	8.5%
3	あなたは，授業中，先生や友達の話聞くことができますか。	95.1%	4.9%
4	あなたは，授業中，発表をよくしていますか。	75.6%	24.4%
5	あなたは，困ったことがおきた時，先生に話していますか。	91.5%	8.5%
6	先生は，自分たちのことをよくわかっていると思いますか。	95.1%	4.9%
7	あなたは，自分から大きな声であいさつができていますか。	84.1%	15.9%
8	あなたは，大きな声で返事ができていますか。	87.8%	12.2%
9	あなたは，トイレのスリッパやくつのせいとんができていますか。	98.8%	1.2%
10	あなたは，そうじをいっしょうけんめいできていますか。	98.8%	1.2%
11	あなたは，運動が好きですか。	92.7%	7.3%
12	あなたは，自分のよいところが1つでもあることに気づきましたか。	87.8%	12.2%
13	あなたは，将来の夢や目標をもっていますか。	93.9%	6.1%
14	あなたは，読書が好きですか。	82.9%	17.1%
15	あなたは，宿題を忘れず出せていますか。	92.7%	7.3%
16	あなたは，学校でのことをおうちの人に話していますか。	87.8%	12.2%

(4) 本年度の研究

① 学校経営計画の3部会

学力向上を図るには，授業改善が欠かせない。また，学力を支える体づくりや基本的な生活習慣，学習習慣の定着，心の教育も大切である。そして，児童の実態を見取り，実態に合わせた指導の在り方を考えていくことも大事にしたい。

そこで，学校経営計画に基づき，

- ・自分の思いや考えを伝え合い，高め合う授業づくりを推進する「技づくり部」
- ・規範意識や子ども同士の関わり，心の成長を推進する「心づくり部」
- ・生活および学習習慣を見直し，体力・食育を推進する「体づくり部」

の3部会を設定し，全教員で取組を進める体制を取ることとする。

これらの部会には学年を越えたメンバーが所属することとし、10年以上経験のあるS3教員による若手育成にもつながることを期待している。

② 研究授業等に関すること

昨年度の研究の成果や課題を踏まえ、本年度も、研究教科を国語科とし、学習指導要領に基づいた「主体的・対話的で深い学びの視点」からの授業づくりについて研究を進めていく。なお、国語科の目標は次のように示されている。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関する配慮事項として次のように示されている。

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

なお、解説には、次のように示されている。

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現させるものではない。単元など内容や時間のまとまりの中で、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくり出すために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進めることが求められる。また、児童や学校の実態に応じ、多様な学習活動を組み合わせることで授業を組み立てていくことが重要であり、単元のまとまりを見通した学習を行うにあたり基礎となる知識及び技能の習得に課題が見られる場合には、それを身に付けるために、児童の主体性を引き出すなどの工夫を重ね、確実な習得を図ることが必要である。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるにあたり、特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」である。(略)

言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることである。

これらの点を踏まえ、具体的には、「単元で身に付けたい資質・能力を明確にした単元構想」「最適な言語活動の設定」を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についての研究を進めていく。なお、研究授業の際には、講師を招聘して研修することとしているが、招聘ができない場合は、教員の授業力向上にもつながる観点から、本校の教員が講師を務めることも取り入れる。

また、これまで実施してきた学びを明日からの実践に取り入れるためのレポートも続けていき、それを再び教職員に提示し、次回の研究授業や日々の実践に生かすようにすることにより、研究授業と日々の授業や次の研究授業をつなぐ工夫をしていきたい。

さらに、今年度は、研究授業や教材研究をオープンにし、他校の先生や中学校の先生にも参加していただき、多様な意見を出してもらうことで研究をより高めていきたい。中でも、教材研に力を入れたい。教材研に講師の先生に来ていただき、教材研究や評価の仕方などを教えていただきながら全教員の学びとしていきたい。

③ 研究内容

ア「身に付けたい資質・能力を明確にした単元構想の工夫」

- ・単元で付けたい力を明確にしながら単元構想図を作成する。
- ・単元のまとまりを見通した学びや「見通し」「振り返り」の場面を設定し、児童が主体的に学ぶ授業を創造する。

イ「最適な言語活動の設定」

- ・「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを深めることができる言語活動を設定する。
- ・相手の意見を聞き、受けとめる姿勢を育てる。(学級の雰囲気)
- ・対話の前に自分の考えを持たせる。(自己決定の場)
- ・必要感や「身につけさせたい力」に結びつく明確な目的のある交流をさせる。
- ・明確な目的のある「対話的な学び」の場面を設定し、考えを深めたり広げたりするための手立て(問い返しのある学び)を工夫する。

ウ 日常的な活動や環境づくり

- ・読書活動を充実させる。(並行読書、発達段階に応じた読書の質と量の充実)
- ・継続して、書くことに取り組む。(日々の日記、漢字タイムでの視写など)
- ・授業や集会などにおいて、これまで本校で取り組んできた「伝え合うスキル」を目指して取り組む。

「国府小学校伝え合うスキル」

	聞く	話す	関わり合う
1年	・話し手を見て聞く。	・よく聞こえる声で、聞き手の顔を見て話す。	・話し手の言うことに反応する。
2年	・話し手を見て考えながら聞く。	・よく聞こえる声で、聞き手の顔を見て話す。 ・話したい事柄を考えて、順序よく話そうとする。	・話の内容に応じてうなずいたり、意見を返したりする。
3年	・自分の考えと比べながら聞く。 ・話し手が何を伝えようとしているのか、内容を考えながら聞く。	・よく聞こえる声で、聞き手を意識して話す。 ・自分の考えが相手に伝わるように、理由や事例を挙げて話す。	・友達の意見に絡めて、自分の意見を話す。
4年	・自分の考えと比べながら聞く。 ・大事なことや話の中心に気を付けて聞く。	・よく聞こえる声で、聞き手を意識して話す。 ・目的に沿って、内容がわかりやすいように筋道を立てて話す。	・相手の話を受けて、主題からそれずに話す。 ・互いの考えの違いや同じところを考えながら話し合う。
5年	・話し手の意図を正確に聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点に気付く。	・よく聞こえる声で、聞き手の反応を見ながら話す。 ・組み立てを考え、主旨のはっきりした話をする。	・相手の考えや意見を尊重しながら話し合う。 ・その場の状況に応じて伝え方を工夫する。
6年	・話し手の意図を正確に聞き取り、自分の考えを明確にする。	・よく聞こえる声で、聞き手の反応を見ながら話す。 ・意図や根拠を明らかにして、考えを述べる。	・相手の立場や心情を考えて話し合う。 ・その場の状況に応じて伝え方を工夫する。

④ 外部研修

- ・各ブロック 1 名程度，外部の公開研究会等の研修会に参加し，本校の研究に生かしていく。
- ・できるだけ国語科や本校の研究に関連ある内容の研修を選択する。

2 校内研究体制

学校教育目標
自立できる子どもの育成
 ～かしこく やさしく たくましく～

研究主題
 『自ら学ぶ力の育成』
 ～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの国語科の授業づくり～

	低学年チーム	高学年チーム
メンバー	1年・2年・3年・な1 7年（教頭・栄養教諭）	4年・5年・6年・な2 7年（校長・養護教諭）
教材研究日 （案）	3年：5／26 2年：6／16 1年：11／24	6年：7／28 5年：8／25 4年：9／22 な1：11／17
授業研究日 （案）	3年：6／9 2年：7／7 1年：1／19	6年：9／15 5年：10／13 4年：10／27 な1：12／8

体づくり部	心づくり部	技づくり部
テーマ【体力向上】	テーマ【学校生活】	テーマ【学力向上】
【取組内容】 ①望ましい生活習慣づくり 早寝・早起き・朝ご飯・家庭学習 ↓ 意識化（啓発・点検） ②体育・行事の改善 ③食育の推進 ④保健教育の推進 など 検証：体カテスト，生活点検	【取組内容】 ①読書活動の推進 ②異年齢集団による活動 ③人権教育の充実 ④規範意識の醸成 ルール徹底・あいさつ・整頓・環境整備・清掃活動 ⑤ハート通信・ハートコーナー など 検証：Q-U調査 意識実態調査（北B）	【取組内容】 ①計画的な研究推進 （研修スケジュール・PDCAサイクル化） ②学習規律の徹底 ③評価の見直し ④必達基準作成・点検 ⑤家庭学習の充実 ⑥単元テスト ⑦音読 など 検証：学力調査

3 研究の構想

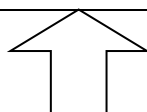
研究主題

自ら学ぶ力の育成

【授業の中でめざす子どもの姿】

◎一人ひとりの考えを深めていくための対話的な学びの工夫

- ① 主体的に課題に取り組んでいる
- ② 自分の考えを、根拠を持って表現している
- ③ 友だちの考えを自分の考えや今までの学習と関連付けて聞いている
- ④ 自分の考えを深めたり広げたりしている



【研究仮説】

何を学ぶかという「目的意識・課題意識」を明確にした単元構成を工夫し、学んだことをもとにして自分の考えをまとめ表現する言語活動を授業の中に意図的に組み込んでいけば、学ぶ目的が明確になり、主体的に課題解決に取り組み、目的に応じて表現する児童が育つであろう。

【研究の内容】

- (1) 身に付けたい資質・能力を明確にした単元構成の工夫
- (2) 最適な言語活動の設定
- (3) 日常的な活動や環境づくり

【研究の方法】

- (1) 授業研究
 - ・ 1人1回の研究授業
 - ・ 講師を招聘して、授業力を高める指導の在り方などの研修を行う。
- (2) ブロックや部会の充実
 - ・ ブロック（低・高）で事前に教材研究、指導案作成をしたうえで、全体で事前研（模擬授業を含む）を行い、授業の視点を明確にし、研究授業に臨むようにする。
 - ・ 学力を支える基本的な生活習慣や基礎学力の定着に向けた取組を進める。

【検証方法】

- ・ 教師間や児童による授業評価を行い、改善に生かす。
- ・ 校内研アンケートを実施し、取組を検証する。
- ・ 各種調査で児童の実態を把握し、実践に生かす。

研究計画【令和3年度】（第1水：職員会/第2・3・4水：校内研）

月	日	内 容
4	1日(木)	今年度の研究内容・計画提案協議
	7日(水)	職員会(1学期行事), 部会からの提案
	14日(水)	授業研年間計画決定, 指導案様式・スタンダード・講師依頼計画
	21日(水)	学校経営計画, ブロック研・部会
	28日(水)	ブロック研(参観授業・学校訪問指導案検討)
5	12日(水)	職員会・支援会(いじめ防止支援会)
	19日(水)	ブロック研・部会
	26日(水)	①()年 教材研 ※講師
6	2日(水)	ブロック研・部会
	9日(水)	①()年 研究授業「 」
	16日(水)	②()年 教材研 ※講師
	23日(水)	全国学力調査・標準学力調査自校分析結果と取組
	30日(水)	職員会・支援会(いじめ防止支援会)
7	7日(水)	②()年 研究授業「 」
	14日(水)	部会(1学期の反省)
	21日(水)	1学期の反省と2学期の方針(各部より) 全国学力調査自校分析結果と取組(北プロ持参)の確認
	28日(水)	職員会(2学期行事) ③()年 教材研 ※講師
8	25日(水)	研修報告 ④()年 教材研 ※講師
9	1日(水)	職員会・支援会(いじめ防止支援会)
	8日(水)	ブロック研・部会
	15日(水)	③()年 研究授業「 」
	22日(水)	⑤()年 教材研 ※講師
	29日(水)	ブロック研・部会, 運動会総合練習反省
10	6日(水)	職員会・支援会(いじめ防止支援会)
	13日(水)	④()年 研究授業「 」
	20日(水)	ブロック研・部会
	27日(水)	⑤()年 研究授業「 」
11	10日(水)	職員会・支援会(いじめ防止支援会)
	17日(水)	⑥()年 教材研 ※講師
	24日(水)	⑦()年 教材研 ※講師
12	1日(水)	職員会・支援会(いじめ防止支援会)
	8日(水)	⑥()年 研究授業「 」
	15日(水)	研究のまとめについて提案, ブロック研・部会(2学期の反省)
	22日(水)	2学期の反省と3学期の方針(各部より), 職員会(3学期の行事)
1	12日(水)	県版学力調査自校分析, ブロック研 職員会・支援会(いじめ防止支援会)
	19日(水)	⑦()年 研究授業「 」
	26日(水)	研究のまとめの検討, 部会
2	2日(水)	職員会・支援会(いじめ防止支援会)
	9日(水)	ブロック研, 部会
	16日(水)	県版学力調査・標準学力調査結果分析 チェックリスト・漢字到達度・単元テスト提案
3	2日(水)	部会(1年間の反省) 職員会・支援会(いじめ防止支援会)
	9日(水)	各部の反省, チェックリスト・漢字到達度・単元テスト確認 部会(次年度への引継ぎ確認)
	16日(水)	次年度研究の方向性の提案・協議

4 研究内容

授業改善を進めていくために、国語科の授業スタンダード、板書スタンダード、実際の板書等を確認する。

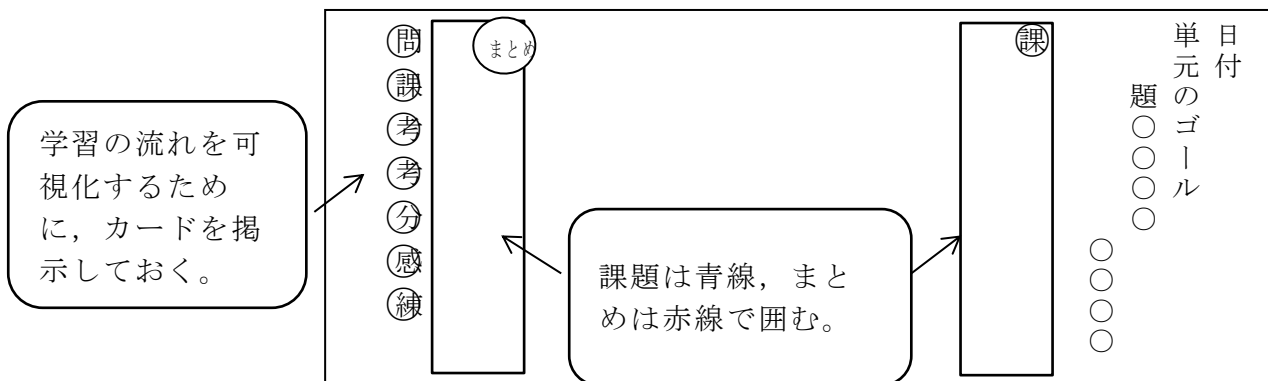
(1) 授業スタンダード

【国語科】

①授業スタンダード

	学 習 活 動	指 導・支 援
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の「学習課題」をつかむ ・主体的に課題に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 課題の工夫，明確化 ◇ 視点の提示 ◇ 学び方の提示
考える	<ul style="list-style-type: none"> ○目的を持って課題を追究する *確かに読み，自分の考えを持つ ・読む活動→考える ・書く活動→考える ・表現する 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 読みの視点の明確化 ◇ ワークシートの工夫 ◇ 読む力や考える力を高める発問の工夫
深める	<ul style="list-style-type: none"> ○考えを交流し，広げ深める *自分の考えを，根拠を持って表現する *友達の考えを，自分の考えやこれまでの学習と関連付けて聞く ・話す・聞く活動 ・書く活動→表現する 再思考する 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 交流活動の場の工夫 ・ペア，グループ，全体 ◇ 視点の明確化 ◇ 話し方の提示 ・スキル・マニュアル ◇ 深める補助発問，しかけ ・切り返し
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習を振り返る *学びを共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 板書に位置付け ・何がわかったか ・どうすることでわかったか

〈板書スタンダード〉



②単元構想図

<単元の構想> 単元名 和の文化について調べよう

教材名 「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる」(東京書籍 五)

和の文化を受けつぐ～和菓子をさぐる～

☆必要な情報を見つける☆

☆資料を使って説明する☆

<和の文化の
(リーフレット)
を作ろう>

1. 学習の見通しを立てよう。

- ・身の回りにある「和の文化」って？
- ・グループで「和の文化」について調べ、(リーフレット)を作るという見通しをもつ。

2～6. 「和の文化を受けつぐ」を読んで筆者の説明の仕方を読み取ろう。

- ・全文を読んで、筆者の「和の文化」に対する考えと文章構成を読み取る。
- ・筆者が和菓子について、どのような観点から説明しているのか読み取る。
- ・よりくわしく説明するためにどのような資料を活用しているか考える。

7～13. 「和の文化」について調べ、情報を整理し
(リーフレット)を作ろう。

- ・計画にそってグループで分担して調べ、設定した観点に必要な情報を集める。
- ・選んだ情報と資料を使って、報告の文章を書く。
- ・完成した(リーフレット)を見合う。